

乳幼児期の子どもをもつ母親の育児における尺度の特徴と
動向に関する文献レビュー小平由美子¹⁾、尾 関 唯 未¹⁾、河村江里子²⁾Literature Review on Characteristics and Trends of Childcare Scales for
Mothers of InfantsYumiko KOHIRA¹⁾, Yumi OZEKI¹⁾, Eriko KAWAMURA²⁾

要 旨

目的：乳幼児期の子どもをもつ母親の育児に関する尺度の特徴と動向について、文献の知見を整理し、今後の課題について示唆を得ることである。

方法：医学中央雑誌 Web 版 (Ver.5) および CiNii, EBSCOhost をデータベースとし、((乳幼児/TH or 乳幼児/AL) and (母親/TH or 母親/AL) and (尺度/TH or 尺度/AL)) を検索し、2007年から2021年11月までに発表された23文献を対象とした。

結果：育児の測定内容は、「幸福感」「自信感」「不安感」「ウェルビーイング」「効力感」「満足感」「ストレス」「レジリエンス」「困難感」「負担感」「親役割」「サポート」等であった。

結論：今後は、COVID-19の拡大における母親の育児不安やストレス等、育児困難な状況下における育児の多様性や子どもの発達段階に沿った尺度の開発等、信頼性および妥当性、実用可能性について検討していく必要がある。

Abstract

Aim: To summarize the findings of the literature on the characteristics and trends of childcare scales for mothers of infants, and to obtain insights for future research topics.

Method: The Journal of Health Care and Society web version (Ver. 5), CiNii, and EBSCOhost were used as databases, and 23 articles on scale development published from 2007 to November 2021, obtained through searches using the keywords (infant/TH or infant/AL), (mother/TH or mother/AL), and (scale/TH or scale/AL), were included in this study.

Results: Childcare practices were measured using scales such as "happiness", "confidence", "anxiety", "wellbeing", "efficacy", "sufficiency", "stress", "resilience", "difficulty", "burden", "parental role", and "social support".

Discussion: As future research topics, it was suggested that the reliability, validity, and practicality of modification and development of the scale according to the infant's developmental stage and the diversity of childcare under difficult childcare situations with anxiety and stress among mothers in crisis

1) 岐阜聖徳学園大学看護学部
2) 名古屋大学大学院 医学系研究科
小平由美子 ykohira@gifu.shotoku.ac.jp

Faculty of Nursing, Gifu Shotoku Gakuen University
Nagoya University Graduate School of Medicine

management situations associated with the COVID-19 pandemic should also be examined.

キーワード：尺度，文献レビュー，乳幼児，育児，母親

Keywords: Scale, Literature Review, Infant, Childcare, Mother

I. 緒言

現代の母親を取り巻く環境は、女性のキャリア志向や社会進出等の晩婚化による高齢出産、少子・核家族化やステップファミリーの増加等、多様化している（内閣府，2018）。また、高度生殖医療技術をはじめとした周産期医療の進歩によるハイリスク妊婦およびハイリスク新生児は年々増加傾向にあり（厚生労働省，2022）、母親の育児困難や負担感は複雑化している。このような中、世界保健機関（World Health Organization；WHO）によりパンデミックと宣言された新型コロナウイルス感染症（Corona Virus Disease；以下，COVID-19）の世界的な流行は、育児期における母親にも更なる育児不安や育児ストレスを生み出している現状があると考えられる。本邦においては、各地方自治体を通して感染流行下における母子への相談窓口の開設や低所得世帯の特別支援受給等の対策を講じている現状があり（厚生労働省，2021a；2021b；2021c）、新たな生活様式へと変化をもたらしている。

育児不安については、「育児行為の中で一時的あるいは瞬時的に生じる疑問や心配事ではなく、持続し、蓄積された不安な状態」であることが既に概念化されており（牧野，1982）、育児不安を測定する「育児不安尺度」が開発されている（牧野，1982；佐々木ら，1986）。さらに、一時的かつ持続的な不安を測定する「新版STAI 状態-特性不安検査（State-Trait Anxiety Inventory-JYZ）」（肥田野ら，2000）や、「MAS（Manifest Anxiety Scale）」（Yoshida H, et al, 1999）など、不安を測定する尺度についても開発されてきた。さらに、1990年代に入ると、育児ストレスに関連する尺度である「Childcare Stress Scale」（久田ら，1990）や、「エジンバラ産後うつ病自己評価票（Edinburgh Postnatal Depression Scale: EPDS）」（岡野ら，1996）等

の尺度が開発されるようになってきた。一方、1990年代後半に入ると、育児不安等のネガティブな側面における研究の限界について教育・福祉分野等で指摘されるようになり（岩田，1997）、看護学分野においても、育児不安の回避について、育児は幸福感が基底をなしていることが着目され（清水ら，2007）、育児の肯定的な感情について測定可能な尺度が開発される傾向にある。

乳幼児の母子保健については、母子保健法（11条）に基づいて、新生児期（生後28日まで）の新生児訪問指導や、発達のポイントとなる「4ヶ月」「10ヶ月」に乳幼児健康診査を実施する市町村が多く、中でも「1歳6ヶ月」「3歳」の乳幼児健康診査については、義務づけられている（厚生労働省，2021）。このように、発達において重要な時期にある乳幼児期の育児に対して、子どもの発達段階に着目した母親の育児の特徴について測定可能な尺度の活用が有効であると考えられる。したがって、今回のCOVID-19の拡大のような危機的状況下における生活様式の変化や影響をふまえた、簡便かつ、精度の高い尺度の開発が望まれると考えられる。

以上のことから、新たな局面を迎えている乳幼児期の子どもを母親の育児不安やストレス、困難感、さらには育児の肯定的感や強みについても測定可能な尺度を整理しておくことは、急務であると考えられた。

II. 目的

本研究の目的は、母親の育児に関する測定尺度について概観することで、乳幼児期の子どもをもつ母親の育児不安やストレス、肯定感等、母親の育児困難について測定可能な尺度の特徴と動向について、文献の知見を整理し、今後の研究課題について示唆を得ることである。

III. 研究方法

1. 文献の検索過程

医学中央雑誌 Web版 (Ver. 5) および CiNii, EBSCOhost をデータベースとして使用し, ((乳幼児/TH or 乳幼児/AL) and (母親/TH or 母親/AL) and (尺度/TH or 尺度/AL)) をキーワードとして検索した (2021年 11月実施). 研究の動向とタイムリーな課題を把握するため, 検索開始年度は, 育児不安尺度について川崎ら (2008) の研究対象以降である2007年から2021年11月までに発表された全ての文献とした.

2. 包含/除外基準

該当した文献のうち, 解説・特集など, 乳幼児の母親に関する方法や効果について, 対象を父親のみとしている尺度, また, 疾患等を持つ子ども等の特別なニーズをもつ子どもの母親を測定する尺度について, 一般化・簡略化した内容の文献は除外した. さらに文献を読み込み, 乳幼児期の母親の育児に関する尺度について, 結果を抽出した. 各文献で明らかになった知見を検討し, 最終的に, 23件の原著論文を分析対象とした.

分析は, まず各論文で明らかになった乳幼児期の母親の育児に関する尺度についての内容を

要約した. さらに, 要約した内容の類似性に着目して分類した. 尚, 選択された文献の妥当性については, 母子保健の専門家である研究者間で検討した.

3. データ分析

本研究では, ①年次推移, ②研究対象, ③児の年齢, ④尺度名, ⑤尺度の項目, ⑥尺度の因子, ⑦因子名について分類し, さらに測定項目の内容について確認した.

IV. 倫理的配慮

検討した文献は, 適切な手段で入手し, 尺度の意味内容については, 開発者の意図に沿うよう論文の著作権を尊重し, 原論文に忠実であることに努めて使用した.

V. 結果

乳幼児期の子どもを持つ母親の育児における尺度119件のうち, 除外・包含基準を満たした21件に, ハンドサーチした2件を含めた計23文献を分析対象とし, フローチャートを図1に示す. また, 分析対象とした文献の詳細な内容については, 表1-1および表1-2に示す.

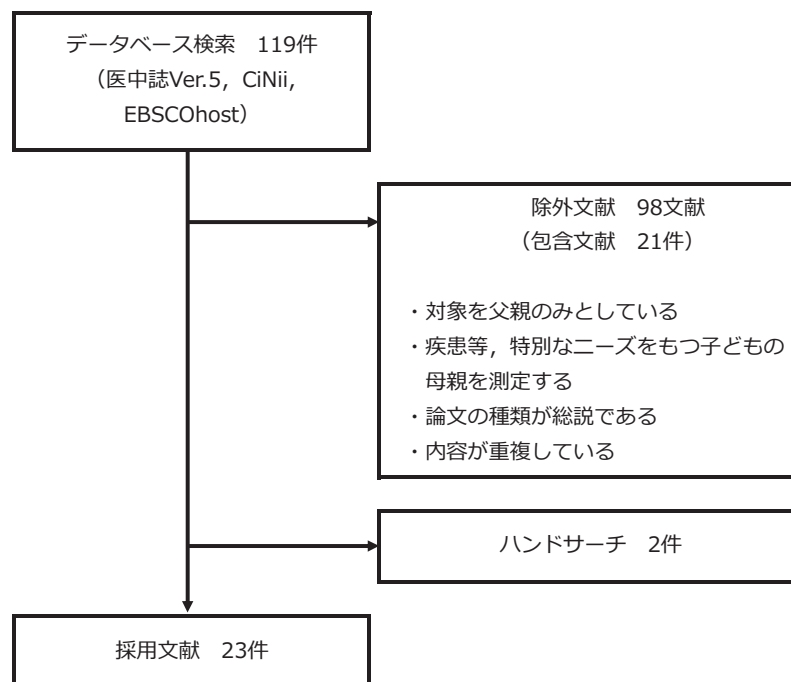


図1 乳幼児期の子どもを持つ母親の育児に関する尺度の文献選定フロー

表 1-1 乳幼児期の子どもをもつ母親の育児に関する尺度文献の概要

文献番号	タイトル	掲載年	対象	児の年齢	尺度名	項目数	因子数	因子名
1	清水嘉子, 関水しのぶ, 遠藤俊子, 他(2007): 母親の育児幸福感 尺度の開発と妥当性の検討, 日本看護科学誌, 27(2), 15-24.	2007	母親	0-6歳児	母親の育児幸福感尺度	41	8	「子どもの成長」「希望と生きがい」「親としての成長」「子どもに必要とされること」「夫への感謝の念」「新たな人間関係」「子どもからの感謝や癒し」「出産や子育ての意義」
2	奥富庸一, 橋本佐由理, 池田佳子(2007): 「育児自信感」および「育児不安感」の尺度作成に関する研究, メンタルヘルスの社会学, 13, 38-49.	2007	母親 父親	0-6歳児	「育児自信感」「育児不安感」尺度	24	7	「育児自信感」「育児不安感」「自己価値感」「特性不安」
3	川村千恵子, 田辺昌吾, 野原留美, 他(2008): 乳幼児の母親のウェルビーイング尺度作成に関する研究, メンタルヘルスの社会学, 14, 64-73.	2008	母親	0-6歳児	「母親のウェルビーイング」尺度	25	6	「社会面のウェルビーイング」「家庭面のウェルビーイング」「母親である自己の受容」「心理面のウェルビーイング」「育児面のウェルビーイング」「身体面のウェルビーイング」
4	阿部亜希子, 小林淳子(2009): 日本語版 Parenting Sense of Competence(PSOC) 尺度の信頼性・妥当性の検討, 日本看護学会誌, 11(2), 23-30.	2009	母親	乳幼児	日本語版 Parenting Sense of Competence(PSOC) 尺度	12	2	【育児の自己効力感】【育児の満足感】
5	酒井ひろ子, 大橋一友(2009): 新生児を育てる母親のストレッサー尺度の開発, 日本母性看護学会誌, 9(1)1-8.	2009	母親	1カ月 未満児	母親のストレッサー尺度	15	5	「夫」「ソーシャルサポート」「新生児」「母乳育児」「多忙」
6	大橋幸美, 浅野どり(2010): 育児期の親性尺度の開発 信頼性と妥当性の検討, 日本看護研究学会誌, 33(5), 45-53.	2010	母親 父親	0-6歳児	育児期の親性尺度	33	3	「親役割の状態」「子どもに対する認識」「親役割以外の状態」
7	尾野明未, 奥田訓子, 茂木俊彦(2012): 子育てレジリエンス尺度の作成, ヒューマンケア研究, 12(2), 98-108.	2012	母親	乳幼児	子育てレジリエンス尺度	30	3	なし
8	神崎光子, 大滝干文, 前田一枝, 他(2012): FFS(家族機能尺度)日本語版の開発 養育期の家族を対象とした信頼性と妥当性の検討, 日本看護学会誌32(1), 50-58.	2012	母親	3歳児以下	FFS(Family Functioning Scale)日本語版	24	6	「情緒的絆と結束」「外部との関係」「家族規範」「役割と責任」「経済的資源」「コミュニケーション」
9	平谷優子, 法尚尚宏(2013): 未就学児のいる親用ソーシャルサポート認知スケール(Social Support Perception Scale for Parents Rearing Preschoolers:SSPS-P)の開発とその有効性の検討, 家族看護学研究, 19(1), 2-11.	2013	母親 父親	0-6歳児	未就学児のいる親用ソーシャルサポート認知スケール(Social Support Perception Scale for Parents Rearing Preschoolers:SSPS-P)	28	4	「情緒的サポート」「手段的サポート」「情報的サポート」「評価的サポート」
10	宮野遊子, 藤本美穂, 山田純子, 他(2014): 育児関連レジリエンス尺度の開発, 日本小児看護学会誌, 23(0), 1-7.	2014	母親 父親	3歳児	育児関連レジリエンス尺度	27	3	『周囲からの支援(I have 因子)』『問題解決力(I can 因子)』『受け止め力(I am 因子)』
11	武田江里子(2014): 「愛着-養育バランス」尺度短縮版の作成と信頼性・妥当性の検討 乳幼児健診での<気になる>母親との関連から, 小児保健研究, 73(6), 783-789.	2014	母親	乳幼児	「愛着-養育バランス」尺度	12	6	「適応愛着」「適応養育」「敏感性愛着」「敏感性養育」「親密性愛着」「親密性養育」

表 1-2 乳幼児期の子どもをもつ母親の育児に関する尺度文献の概要

文献番号	タイトル	掲載年	対象	児の年齢	尺度名	項目数	因子数	因子名
12	山崎圭子, 高木廣文, 齋藤益子(2015):産褥早期における「産後の疲労感」尺度の開発と信頼性・妥当性の検討, 母性衛生, 55(4), 711-720.	2015	母親	1週未満児	「産後の疲労感」尺度	36	4	「身体的ストレス状態」「精神的ストレス状態」「睡眠が不足した状態」「育児困難感」
13	寺園さおり, 山口桂子(2015):子育て期母親役割尺度の作成, 小児保健研究, 74(4), 491-497.	2015	母親	0-6歳児	子育て期母親役割尺度	35	4	「子どもの発達を促すかわり」「基本的生活習慣の確立に向けての援助」「社会生活に向けての教育」「子育てや教育に関する費用の管理」
14	山城久弥(2016):乳幼児を持つ親の子育て観尺度開発 保育者が子育て支援を行う観点から, 厚生指針, 63(3), 8-13.	2016	母親 父親	乳幼児	乳幼児を持つ親の「子育て観」尺度	27	3	「子育てに対する負担」「子育てによる自身の成長の楽しみや喜び」「親としての責任感」
15	武者真美子, 上別府圭子(2017):「産後1カ月の日常生活ストレス調査票」の開発と産後1カ月健診での有用性に関する一考察, 母性衛生, 58(1), 83-90.	2017	母親	1カ月児	産後1カ月の日常生活ストレス調査票	17	6	「夫婦関係」「社会的サポート」「抑うつ」「社会的サポート」「役割による抑制」「親としての有能感」
16	石崎裕(2017):子どものネガティブな感情表出を受け止める養育力尺度の試作, 茶屋四郎次郎記念学術学会誌, 7, 73-82.	2017	母親	0-6歳児	子どものネガティブな感情表出を受け止める養育力尺度	25	44	「怒りによる統制」「感情の混乱」「対処不能・回避」「配慮・説明」
17	武石陽子, 中村康香, 川尻舞衣子, 他(2017):日本語版コペアレンティング関係尺度(CRS-J)の信頼性・妥当性の検証, 日本母性看護学会誌, 17(1), 11-20.	2017	母親 父親	0歳児	コペアレンティング関係尺度の日本語版(CRS-J)	35	7	「育児の合意」「子どもの前でのめめ事」「サポート」「阻害」「家事・育児の分担」「パートナーの育児の承認」「育児による親密性」
18	北田ひろ代, 齋藤泰子(2018):産後の母親のコンフォート尺度の開発, 母性衛生, 59(2), 460-468.	2018	母親		産後の母親のコンフォート尺度	29	4	「身体的コンテクスト」「環境的コンテクスト」「サイコソピリットのコンテクスト」「社会的文化的コンテクスト」
19	岩佐一, 石井佳世子, 吉田祐子(2020):子育て期の女性における認知的失敗尺度日本語版の開発, 日本公衆衛生雑誌, 67(1), 42-50.	2020	女性(母親)	3カ月-6歳児	認知的失敗尺度(Short Inventory of Minor Lapses, SIML)の日本語版	15	1	就労状況, 母親の年齢, 未子の年齢, 児の人数, 世帯収入, 育児サービスの利用状況, 1日の睡眠時間, 疲労感, 神経症傾向
20	佐藤美樹, 荒木田美香子, 金子仁子, 他(2020):幼児を持つ親の家族エンパワメント尺度の開発, 日本公衆衛生雑誌, 67(2), 121-133.	2020	家族	幼児	幼児を持つ親の家族エンパワメント尺度(Family Empowerment Scale for Parents with Toddlers, FES-P)	26	5	「家族との関係性」「育児の効力感」「地域とのつながり」「親役割達成感」「サービスの認知と活用」
21	木村美也子, 尾島俊之(2021):未就学児を養育する母親の受援力尺度の信頼性と妥当性, 社会医学研究, 38(1), 41-53.	2021	母親	未就学児	未就学児を養育する母親の受援力尺度	2	2	「受援の機会を活用しようとする姿勢」「受援に対するためらいと抵抗」
22	中村康香, 武石陽子, 吉沢豊子(2021):0-6歳児を持つ親を対象とした日本語版Coparenting Relationship Scaleの信頼性と妥当性の検証と男女及び児の年齢別による特徴, 母性衛生, 62(2), 334-354.	2021	母親 父親	0-6歳児	日本語版Coparenting Relationship Scale(CRS-J)	5	5	【育児の結束】【育児サポート】【子どもの前でのめめごと】【パートナーの育児関与の忌避】【育児の不一致】
23	細坂泰子, 芽島江子(2021):幼児を養育する母親および父親のしつけセルフトリアージ尺度の開発のための検討, 母性衛生, 62(2), 532-542.	2021	母親 父親	0-6歳児	セルフトリアージ尺度	22(母親) 12(父親)	4(母親) 3(父親)	母親【虐待他者評価不安】【虐待自己評価不安】【育児焦燥感】【母親から子どもへの無意識のパワー】、父親【父親の育児への関わりにくさ】【父親の子どもに対するストレス】【父親から子どもへの無意識のパワー】

1. 年次推移

乳幼児期の子どもを持つ母親の育児における尺度を対象とした23文献の発表の年次推移を概観したところ、「2007～2009年」が5件、「2010～2015年」が8件、「2016～2021年」が10件と年々、増加傾向にあった。

2. 研究対象

研究の対象は、「母親」のみが15件、「母親」「父親」が7件、「母親」「父親」以外の養育者を含めた「家族」が1件であり、「母親のみ」を対象とした文献が最も多かった。

3. 児の年齢

子どもの年齢は、「0～6歳児」が9件と最も多く、次いで「乳幼児」4件、「未就学児」が1件であったが、全て乳幼児期の子どもが対象であった。一方、「幼児」2件、「1歳児未満」1件と、乳児期と幼児期に特化している文献もみられた。さらに、「1ヶ月未満児」1件、「1ヶ月児」1件、「1週間未満児」1件、「3歳児以下」1件、「3ヶ月～6歳児」1件と、児の発達年齢の特徴に合わせた尺度になっている文献もみられた。

4. 育児に関する尺度の測定内容

育児の測定内容は、「幸福感」「自信感」「不安感」「ウェルビーイング」「効力感」「満足感」「ストレス」「レジリエンス」「困難感」「負担感」「親役割」「サポート」等を測定する尺度であった。本稿では、尺度の測定内容から主な下位尺度について、主要な結果を、以下の12の表題およびその他の順に示した。

1) 育児の幸福感について測定する尺度

育児の幸福感を測定する尺度は、文献番号1の「子どもの成長」「希望と生きがい」「親としての成長」「子どもに必要とされること」「子どもからの感謝や癒し」「出産や子育ての意義」等、8因子であった。

2) 育児の自信感について測定する尺度

育児の自信感を測定する尺度は、文献番号2「育児の自信感」等、2因子であった。

3) 育児の不安感について測定する尺度

育児の不安感を測定する尺度は、文献番号2の「育児の不安感」「特性不安」等、5因子であった。

4) 育児のウェルビーイングについて測定する尺度

育児のウェルビーイングを測定する尺度は、文献番号3の「母親である自己の受容」「心理面のウェルビーイング」「育児面のウェルビーイング」等、6因子であった。

5) 育児の効力感について測定する尺度

育児の効力感を測定する尺度は、文献番号4「育児の自己効力感」の1因子、文献番号20の「育児の効力感」等、1因子であった。

6) 育児の満足感について測定する尺度

育児の満足感を測定する尺度は、文献番号4「育児の満足感」等、1因子であった。

7) 育児のストレスについて測定する尺度

育児のストレスを測定する尺度は、文献番号5「母乳育児」「多忙」等の5因子、文献番号12の「身体的ストレス状態」「精神的ストレス状態」等の2因子、文献番号15の「抑うつ」「役割による抑制」等、6因子であった。

8) 育児の強みについて測定する尺度

育児のエンパワメント、レジリエンス等、育児の強みを測定する尺度は、文献番号10の『問題解決力 (I can 因子)』『受け止め力 (I am 因子)』等の3因子、文献番号17の「育児の親密性」等の7因子、文献番号20「親役割の達成感」等、5因子であった。

9) 育児の困難感について測定する尺度

育児の困難感を測定する尺度は、文献番号12「育児困難感」等、4因子であった。

10) 育児の負担感について測定する尺度

育児の負担感を測定する尺度は、文献番号14「子育てに対する負担」等、3因子であった。

11) 育児における親役割について測定する尺度

育児における親役割について測定する尺度は、文献番号6「親役割の状態」等の3因子、文献番号8「役割と責任」等の6因子、文献番号13「子どもの発達を促すかわり」「基本的生活習慣の確立に向けての援助」「社会生活に向けての教育」等の4因子、文献番号20「親役割達成感」等の5因子であった。

12) 育児におけるサポートについて測定する尺度

育児におけるサポートについて測定する尺度は、文献番号5「ソーシャルサポート」等の5因子、文献番号9「情緒的サポート」「情報的サポート」「評価的サポート」等の4因子、文献番号15「社会的サポート」等の6因子、文献番号17「サポート」等の7因子、文献番号22「育児サポート」等の5因子であった。

13) その他の測定・評価尺度

その他、乳幼児期の子どもを持つ母親の育児を測定する尺度は、文献番号17および22の「コペアレンティング」等がみられた。

VI. 考察

1. 乳幼児期の子どもを持つ母親の育児に関する測定尺度の動向および対象の特徴

乳幼児期の子どもを持つ母親の育児に関する測定尺度の文献検討をした結果、国内研究の動向は、2015年度以降の発表が半数以上を占めており、育児について関心が高まっているといえる。

研究対象については、母親のみならず、父親にも応用可能な尺度がみられたものの、ほとんどが母親のみを対象とした研究であり、さらに乳幼児期にあたる未就学児（6歳児以下）が半数以上を占めていた。イクメンプロジェクトが稼働した現在の日本においても（厚生労働省、2019）、6歳未満の子どもの健康管理については、ほとんどが母親に委ねられている現状がある（多田ら、2019）との報告があることから、本邦の

育児に関する特徴と一致していると考えられた。

2. 育児に関する測定尺度の特徴

川崎ら（2008）の研究発表以降も、育児不安についての尺度開発がみられ、測定内容の結果から、「不安感」や「ストレス」以外にも、「困難感」や「負担感」等を測定する尺度もみられた。さらに、育児不安やストレスに限局せず、育児の身体的疲労や産後の抑うつを考慮した内容を測定可能な尺度もみられ、これらは、「育児不安」のみを測定するには限界がある（吉田、2014）との結果からも一致していると考えられる。

一方、親としての成長を実感することで育児に対する自信が生まれることを想定した「自信感」を測定する尺度や、母親である自己の受容を測定する「ウェルビーイング」、自己効力感の高さと育児の効力感を即手可能な「効力感」、子どもの成長を実感することで芽生える「満足感」等、育児の肯定的な側面について測定可能な尺度もみられた。これらの尺度は、育児における様々な状況を目的別に測定可能な尺度であることが考えられる。さらに、育児の困難等を乗り越える力である「レジリエンス」等を測定可能な尺度もみられたことから、母親の不安等の否定的な側面のみ着目するのではなく、さらに母親の育児の強みを測定可能な尺度については、コロナ禍における母親の複雑な状況における、適応力等を把握することに繋がるのが考えられる。

尺度の項目数は、子どもの年齢や発達段階が関係しているといえる。育児負担のピークである乳児期の測定尺度は、項目数が少ない傾向にあった。これは、片時も子どもから目が離せない乳児期における測定は、母親への負荷をかけた配慮であったといえる。したがって、より簡便な尺度である必要があったと考えられる。

一方、簡便化されることによる尺度の信頼性・妥当性への懸念がある（川崎ら、2008）との指摘もある。子どもの年齢が0～6歳児と対象

の幅を広く設けている尺度もあるものの、様々な発達年齢の子どもの母親における尺度として汎用性はあるものの、活用する際に育児負担の大きい乳児をもつ母親への活用は困難であり、実用性は低くなるのが懸念される(大竹ら, 2020)。発達が著しい乳幼児期の子どもを持つ母親への尺度の測定は、子どもの発達に伴う育児内容の変化について測定可能である前向きコホート等の尺度が望ましいが、現段階では、育児を縦断的に測定可能な尺度は見当たらなかった。

今後は、今回のCOVID-19の拡大のような危機的状況にある母親の育児不安や困難感、ストレス状況だけでなく、母親の強みや、育児の肯定的感情を把握することで、困難な状況を乗り越えて育児をする母親の力を活用した支援につなげていくことが可能となる。よって、未曾有の危機に直面している母親の育児を多角的に把握するための測定可能な尺度を開発していくことは、新たな局面を迎えた母親の特徴を踏まえた重要な育児支援に繋がるのが考えられる。

3. 本研究の限界と今後の課題

今回の研究は、国内の尺度に関する文献のみをレビューとしたこと、COVID-19の拡大前に開発された尺度であることに限界がある。本研究結果を踏まえ、今後は、COVID-19の拡大における母親の育児不安やストレス等、育児困難な状況下における育児の多様性および子どもの発達段階に沿った尺度の改変および開発等について、信頼性および妥当性、実用可能性を検討していく必要がある。さらに、国内だけでなく国外の文献についても検討し、より具体性・新規性のある育児に関する測定尺度について、検討する必要があるといえる。

VII. 結論

1. 乳幼児期の子どもをもつ母親の育児に関する尺度の特徴と研究の動向について、抽出された23文献を検討した結果、2015年度以

降の発表が半数を占めており、子どもの発達を踏まえた育児の特徴を測定可能な尺度が散見された。また、測定内容の詳細については、「不安感」「困難感」「負担感」「ストレス」「満足感」「幸福感」「効力感」「レジリエンス」等、様々な因子であることが明らかになった。

2. 今後は、COVID-19の拡大における母親の育児不安やストレス等、育児困難な状況下における育児の多様性および子どもの発達段階に沿った尺度の改変および開発等について、信頼性および妥当性、実用可能性を検討していく必要がある。さらに、国内だけでなく国外の文献についても検討し、より具体性・新規性のある育児に関する測定尺度について、検討する必要があることが示唆された。

付記：本稿は、7th ICCHNR (International Collaboration for Community Health Nursing Research Conference), Sweden (2022) において発表したものを、一部加筆し修正した。

利益相反：本研究における利益相反は存在しない。

著者資格：YKは原稿作成の全過程を実施；YOは文献選択および分析と解釈、原稿への示唆に貢献；EKは原稿への示唆、助言。すべての著者は最終原稿を読み、承認した。

文献

阿部亜希子, 小林淳子(2009): 日本語版 Parenting Sense of Competence (PSOC) 尺度の信頼性・妥当性の検討, 北日本看護学会誌, 11 (2), 23-30.

細坂泰子, 芽島江子(2021): 幼児を養育する母親および父親のしつけ—セルフトリアージ尺度の開発のための検討, 母性衛生, 62 (2), 532-542.

- 肥田野直, 福原眞知子, 岩脇三良, 他(2000):新版 STAIマニュアル, 実務教育出版, 東京.
- 平谷優子, 法橋尚宏(2013):未就学児のいる親用ソーシャルサポート認知スケール(Social Support Perception Scale for Parents Rearing Preschoolers:SSPS-P)の開発とその有効性の検討, 家族看護学研究, 19(1), 2-11.
- 久田満, 箕口雅博, 千田茂博, 他(1990):育児ストレスと産後うつ症—ソーシャルサポートとしての夫婦親密性のもつストレス緩和効果の検討, 社会心理学研究, 6(1), 404-416.
- 岩佐一, 石井佳世子, 吉田祐子(2020):子育て期の女性における認知的失敗尺度日本語版の開発, 日本公衆衛生雑誌, 67(1), 42-50.
- 岩田美香(1997):「育児不安」研究の限界:現代の育児構造と母親の位置, 北海道大学教育福祉研究, 3, 27-34.
- 神崎光子, 大滝千文, 前田一枝, 他(2012):FFS(家族機能尺度)日本語版の開発—養育期の家族を対象とした信頼性と妥当性の検討, 日本看護科学会誌, 32(1), 50-58.
- 川崎道子, 宮地文子, 佐々木明子(2008):育児不安・育児ストレスの測定尺度開発に関する文献検討(1983年~2007年), 沖縄県立看護大学紀要, 9, 53-60.
- 河村江里子, 浅野みどり(2020):NICU入院児の父親の職場における育児支援と退院後の親性の関連, 日本小児看護学会誌, 29, 159-166.
- 川村千恵子, 田辺昌吾, 野原留美, 他(2008):乳幼児の母親のウェルビーイング尺度作成に関する研究, メンタルヘルスの社会学, 14, 64-73.
- 北田ひろ代, 齋藤泰子(2018):産後の母親のコンフォート尺度の開発, 母性衛生, 59(2), 460-468.
- 木村美也子, 尾島俊之(2021):未就学児を養育する母親の受援力尺度の信頼性と妥当性, 社会医学研究, 38(1), 41-53.
- 小平由美子, 岡山久代(2017):母親の育児における肯定的感情と愛着パターンおよびサポートとの関連性 日本看護研究学会雑誌, 39(3).
- 厚生労働省ホームページ(2021a):妊産婦や乳幼児に向けた新型コロナウイルス対応関連情報, https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_10890.html. [検索日;2021.11.21]
- 厚生労働省ホームページ(2021b):新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策~妊婦の方々へ~, <https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000822215.pdf>. [検索日;2021.11.21]
- 厚生労働省ホームページ(2021c):コロナ禍の子育て支援策について 厚生労働省子ども家庭局, <https://www.mhlw.go.jp/content/11601000/000766177.pdf>. [検索日;2021.11.21]
- 厚生労働省ホームページ(2021d):母子保健法第1章 乳幼児健康診査 第1節, https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/060401/files/2015122800139/file_20162254154537_3.pdf. [検索日;2021.11.21]
- 牧野カツコ(1982):乳幼児をもつ母親の生活とく育児不安, 家庭教育研究所紀要, 3, 34-56.
- 宮野遊子, 藤本美穂, 山田純子, 他(2014):育児関連レジリエンス尺度の開発, 日本小児看護学会誌, 23(1), 1-7.
- 武者貴美子, 上別府圭子(2017):「産後1ヵ月の日常ストレス調査票」の開発と産後1ヵ月健診での有用性に関する一考察, 母性衛生, 58(1), 83-90.
- 内閣府男女共同参画局ホームページ(2018):「平成28年社会生活基本調査」の結果から~男性の育児・家事関連時間~ http://wwwa.cao.go.jp/wlb/government/top/hyouka/k_42/pdf/s1-2.pdf. [検索日;2021.11.21]
- 中村康香, 武石陽子, 吉沢豊予子(2021):0~6歳児を持つ親を対象とした日本語版 Coparenting Relationship Scaleの信頼性と妥当性の検証と男女及び児の年齢別による特

- 徴, 母性衛生, 62(2), 334-354.
- 岡野貞治, 村田真理子, 増地聡子, 他(1996): 日本版エジンバラ産後うつ病自己評価尺度 (EPDS) の信頼性・妥当性, 精神診断学, 7(4), 525-533.
- 奥富庸一, 橋本佐由理, 池田佳子(2007): 「育児自信感」および「育児不安感」の尺度作成に関する研究, メンタルヘルスの社会学, 13, 38-49.
- 尾野明未, 奥田訓子, 茂木俊彦(2012): 子育てレジリエンス尺度の作成, ヒューマン・ケア研究, 12(2), 98-108.
- 大橋幸美, 浅野みどり(2010): 育児期の親性尺度の開発 信頼性と妥当性の検討, 日本看護研究学会雑誌, 33(5), 45-53.
- 尾関唯未, 浅野みどり, 石黒彩子, 他(2004): 育児不安軽減のための看護支援に関する研究—遊びを通じた母子相互作用の促進, 日本小児看護学会誌 14(2), 58-64.
- 酒井ひろ子, 大橋一友(2009): 新生児を育てる母親のストレス尺度の開発, 日本母性看護学会誌, 9(1), 1-8.
- 佐々木英子, 清水凡生(1986): 乳児をもつ母親の育児不安について, 小児保健研究, 45, 290-293.
- 佐藤美樹, 荒木田美香子, 金子仁子, 他(2020): 幼児を持つ親の家族エンパワメント尺度の開発, 日本公衆衛生雑誌, 67(2), 121-133.
- 石曉玲(2017): 子どものネガティブな感情表出を受け止める養育力尺度の試作, 茶屋四郎次郎記念学会誌, 7, 73-82.
- 清水嘉子, 関水しのぶ, 遠藤俊子, 他(2007): 母親の育児幸福感 尺度の開発と妥当性の検討, 日本看護科学会誌, 27(2), 15-24.
- 多田美由貴, 岩本里織, 岡久玲子, 他(2019): 母親のヘルスリテラシーを測定している尺度と関連要因に関する文献検討, The Journal of Nursing Investigation, 1(2), 1-9.
- 武江里子(2014): 「愛着-養育バランス」尺度短縮版の作成と信頼性・妥当性の検討—乳幼児健診での〈気になる〉母親との関連から, 小児保健研究, 73(6), 783-789.
- 武石陽子, 中村康香, 川尻舞衣子, 他(2017): 日本語版コペアレンティング関係尺度(CRS-J)の信頼性・妥当性の検証, 日本母性看護学会誌, 17(1), 11-20.
- 寺菌さおり, 山口桂子(2015): 子育て期母親役割尺度の作成, 小児保健研究, 74(4), 491-497.
- 山崎圭子, 高木廣文, 齋藤益子(2015): 産褥早期における「産後の疲労感」尺度の開発と信頼性・妥当性の検討, 母性衛生, 55(4), 711-720.
- 山城久弥(2016): 乳幼児を持つ親の子育て観尺度開発—保育者が子育て支援を行う視点から, 厚生学の指標, 63(3), 8-13.
- Yoshida H, Yamanaka T, Khono G, et al (1999) Differences in anxiety variables of mothers leaning first born infants: A pilot study of the maternal anxiety screening scale in M. Matsushita, Fukunishi eds. Cutting Edge Medicine and Liaison Psychiatry. Psychiatric Problems of Organ Transplantation, Cancer, HIV / AIDS and Genetic Therapy. Amsterdam: Elsevier Science, 193-202.
- 吉田弘道(2012): 育児不安研究の現状と課題, 専修人間科学論集心理学篇2(1), 1-8.
- 吉田弘道, 山中龍宏, 巷野悟郎(2014): 育児不安尺度の作成に関する研究—因子間相関について—, 専修人間科学論集 心理学篇, 4(1), 39-44.